

【風来坊 2025】【Photo Album】【スライド動画】【From Kobe 2025】

氷ノ山林道での新緑の自然観察ウォーキングイベントの記録 2025.5.29.

## 【記録】新緑の瀬川・氷ノ山林道 新緑の林道自然観察 Walk



兵庫県治山林道協会主催の「新緑の瀬川・氷ノ山林道自然観察ウォーク」に参加。養父市のサポート隊の林道先導案内でミニマイクバスで新緑の上記林道を移動し、兵庫県最高峰の氷ノ山（標高 1509.8m）山腹の林道を巡り、新緑のブナ林の続く林道で湿地環境、巨木の谷など各観察地で下車して、周辺の自然観察。新緑ブナの森の自然の美しさを楽しみました。

行程は以下の通りです：

《新緑の瀬川・氷ノ山林道 新緑の林道自然観察 Walk》

1. 道の駅「ようか但馬蔵」で養父市のサポート部隊と合流
2. 福定親水公園で小休止
3. 湿地環境を守ろう駅で観察
4. 巨木の谷駅で観察
5. 大段ヶ平で昼食（約 1 時間の大屋町避難小屋までミニ登山）
6. ブナの観察駅でウォーキング
7. 横行溪谷駅周辺をウォーキング（事故による約 2 時間林道閉鎖で 車窓からの横行溪谷の観察）
8. 但馬の名水「ぶなのしずく」を訪問（バス通過）
9. あゆ公園でトイレ休憩（養父市のサポート隊と別れる）
10. 北近畿自動車道 朝来の道の駅「まほろば」で休憩後、三宮へ帰着

途中、林道での滑落事故により、無事に救助が完了するまで、林道閉鎖により約 2 時間の遅延。

参加者は新緑の森の美しさやブナ林の巨木に感動し、自然観察を満喫しました。

また、秋の紅葉の観察会への期待も高まりました。

兵庫県の自然の豊かさを再認識する機会となり、貴重な体験となりました。

【注】今回この記録は PDF アルバム をそのまま Web にある「AI アシスタント」に「要約作成」を任せて作成。すこし、重なりと間違い表記を正しましたが、ほぼそのまま要約にしました。AI には疑問も持っていますが、pdf にした 125 枚のスライドコピーを読み取り、10分ほどで、しっかりしたこの要約を作成してくれました。要約文は次頁まで。まじで驚きました。時代の進歩と流れによく考えねばと。皆様にはどう映るでしょうか・・・

【記録】新緑の瀬川・氷ノ山林道 新緑の林道自然観察 Walk

- 【web File】 <https://infokkna2.com/ironroad2/2025htm/2025walk/25walk13.pdf>
- 【Photo Album】 <https://infokkna2.com/ironroad2/2025htm/2025walk/25walk13photo.pdf>
- 【スライド動画】 <https://infokkna2.com/ironroad2/2025htm/2025walk/25walk13.mp4>
- 参考: ■和鉄の道 2021. 【Photo Album】 残雪の残る氷ノ山山麓ドライブ 2021.4.21.  
<https://infokkna.com/ironroad/2021htm/2021walk/21walk08photo.pdf>
- 和鉄の道・Iron Road Top Page <https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>

## ■主な新緑のブナ林 自然観察の内容 (AI 要約の続き)

1. 道の駅「ようか但馬蔵」 養父市のサポート部隊と合流 イベントがスタートしました。
2. 福定親水公園 小休止を取りながら、周辺の自然を観察。
3. 湿地環境を守ろう駅 標高 800m を越える湿地環境を観察。  
林道沿いの沢や滝、独自の生態系が見られる場所で、自然保護の重要性を学びました。
4. 巨木の谷駅 ブナやミズナラなどの巨木が立ち並びエリアを観察。  
特に「額縁ブナ」と呼ばれる 4 本の巨木など 林道に立ち並びブナの巨木が印象的でした。
5. 大段ヶ平で昼食 昼食後、希望者は標高 1200m の大屋町避難小屋までミニ登山を楽しみました。  
杉林の森とは違う明るいブナの森。氷ノ山頂上に続く新緑の登山道のブナ林や足元の山野草の観察。
6. ブナの観察駅 標高 1160m の地点で、巨木ブナを観察。  
新緑の枝が広がる姿に感動し、自然のエネルギーを感じました。
7. 横行溪谷の車窓からの観察 溪谷沿いに続く杉林の森が続く溪谷の景色を車窓から楽しみました。
8. 但馬の名水「ぶなのしずく」 名水を訪れ、自然の恵みを体感。
9. あゆ公園 最後の休憩地として立ち寄り、自然観察を振り返りました。
10. 道の駅「まほろば」 休憩後、三宮へ帰着。

## ■ 特記事項

途中、横行溪谷で滑落事故が発生し、救助活動のため約 2 時間の遅延がありました。  
救助隊やヘリコプターによる迅速な対応で、滑落者は無事に救助されました。この出来事を通じて、  
山岳地帯での救助活動の困難さや林道の課題について考える機会となりました。

## ■ 感想と次回への期待

参加者は新緑の森やブナ林の美しさに感動し、自然観察を満喫しました。特にブナの巨木や新緑の森の爽快感  
が印象的で、秋の紅葉の観察会への期待が高まりました。また、林道の重要性や自然保護の意識を再認識する  
機会となりました。このイベントは兵庫県の自然の豊かさを体感し、参加者にとって貴重な体験となりました。

(AI 要約を整理して作成)

氷ノ山登山 walk。新型コロナ蔓延で 行けなかった氷ノ山山頂へのハイク。

本年は是非とも行くつもりでいましたが、が年の初めに家内の鎖骨・私の脛トラブルでの加療もあって、  
本年も残念ながら、参加申込みできませんでした。その前に下見の林道ドライブもしたのに…・

家内がスマホで、神戸からバスで現地に入れる「兵庫県林業協会主催 氷ノ山山腹を巡る氷ノ山林道自然観察会(募集  
定員 14 名)」をたまたま見つけた。3年前 氷ノ山登山の下見に通った瀬川・氷ノ山林道の自然観察会。

原チャリで周辺へはよく行きましたが、氷ノ山へは空白のまま。即 ダメもとでもよいかと申し込み、幸運にも参加  
Ok の通知。個人でのハイクとは違う自然観察会 どんな walk になるのか そっちにも興味深々。

天候は曇り 夕方から雨の早朝 ミニマイクロバスで神戸出発 2029.5.29. 8:00

ブナの林や杉の林の森には何度が見ましたが、兵庫県にこんな  
美しいブナ林があるとはつゆ知らず。本当にびっくりしました。  
ちょっと足の便は悪いのですが、心地よいブナ林。

秋には森全体が真っ赤になると聞きました。

東北の紅葉は真っ赤ですが、関西で真っ赤になる紅葉は中々  
なし。こちらも想像するだけでうれくなる

是非、秋の観察会にも参加したいと。

関西で中々見られない素晴らしいブナ林です。

写真はピンボケばかりですが、是非きおくにのこしておきたい  
と 120 数枚の Photo Album と 10 分ものスライド動画に  
長々と。でも 心地よいスライド動画もできてご満悦。

私の好きな BGM 入れて、ゆったりと過ごすひと時です。



ブナ観察駅案内板のすぐ後ろに立つブナの巨木  
見あげる空一杯に新緑の枝を広げた姿 何とも言えず素晴らしい  
ふりそぐエネルギーを胸一杯!!

心やすめにでもなればと。ごめんなさい。

God Be with You!! From Kobe Mitsu





県道87号線養父市福定 氷ノ山の山腹を巡る瀬川・氷ノ山林道入口  
2025.5.29. 10:30.



瀬川・氷ノ山林道 養父市福定 観水公園駅から いよいよ氷ノ山の山腹を通る 2025.5.29.10:30. 瀬川山中腹を抜る道幅の狭い林道。奥州曹所のちょっとした空け地に湿潤場所と作業基地が「駅」といって置かれている。



2021年4月にこの瀬川・氷ノ山林道を通して、氷ノ山国際スキー場から鶴縄林道から山を下り元の県道87号へ下ったのでそのPhotoを参考に掲載しました。 観水公園からは氷ノ山の山腹 まっぴい傾斜の山腹を切り開いて氷ノ山の山腹をめぐる林道 よく整備された道とはいえ、道幅は普通車がギリギリ交わせる程度で、右手は緑に包まれた傾斜のきつい山肌が迫り、左手は林道脇の耳目の向こうは空。小型マイクロバスですが、今回の主催者林業協会の先導車なしにはこの道を走れません。バスの中からシャッター切ってもすぐ窓のすぐ前に樹木があり、それらが流れてphotoにならずで、周囲の春景色を参考に掲載。  
■和鉄の道 残雪の残る氷ノ山山麓ドライブ <https://infokkna.com/ironroad/2021ntn/2021walk/21walk08photo.pdf>



2025.5.29 逆水自然公園駅周辺  
小型マイクロバスの車窓から 国際スキー場ゲレンデ越しに氷ノ山山腹に沿って林道が山腹をめぐる。ゲレンデの下側を右から左へ通り抜け、ロッジ等の建物を奥に抜けると氷ノ山東尾根登山口・逆水自然公園駅



山腹には残雪がまだ少し見える？ 氷ノ山稜線の山並遠望 20225.5.29.  
氷ノ山国際スキー場周辺 林道走るマイクロバス車窓より



東尾根の根元部から鶴縄林道の別れを通過して、大段ヶ平の先端部へ  
幾つもの巨樹や美しい森が続く  
氷ノ山山腹を巡る瀬川・氷ノ山林道の核心部  
東尾根登山口を過ぎると線に包まれた森の中、林道は幾つもの小さな沢を横切り、高度を上げつつ東尾根の先端部を乗り越えて反対側へ回り込む。大きな杉が林立する林や線一杯のブナの林の素晴らしい森が続く。そして、バスを降りての最初の観察地「湿地環境を守ろう駅」へ



東尾根の根元部から鶴縄林道の別れを通過して、大段ヶ平の先端部へ



先導車の案内でマイクロバスで氷ノ山の北山腹の森を巡る。車体幅いっぱい林道 車窓のすぐ横に素晴らしい森の中、標高800m超 氷ノ山の北側山腹を山体に沿って登ってゆく。デジカメで撮る森の景色が左右に流れてしまいましたが、新緑の森の景色が変わってゆくこんな美しい新緑の森が兵庫に残っています。標高が上がるにつれ、森の樹木層が整備された杉林からブナ林の森へ変わってゆく雨もどうやら持ちそう。車窓を眺めるのが楽しい

東尾根の根元部から鶴縄林道との別れを通過して、大段ヶ平の先端部へ



東尾根の根元部から鶏縄林道の別れを通過して、大段ヶ平の先端部へ



美しい杉林の森からブナ林へ 最初の自然観察地「湿地環境守ろう駅」へ  
東尾根の根元部から鶏縄林道の別れを通過し、標高を上げながら大段ヶ平の先端部へ



東尾根の根元部から鶏縄林道の別れを通過して、大段ヶ平の先端部へ



ピンボケですが、薄いピンクのタニウツギ  
林道走る車窓 あちこちで見かけました  
もう通常は咲き終わりだそうですが、  
標高の高い林道のあちこちで見かけました  
新緑の森の花という「白」ですが、  
薄ピンクのタニウツギの花が林道のあちこちで



■ 標高800mを越える「湿地環境を守ろう駅」へ 2025.5.29. 11:12

水ノ山山腹の山袈や沢を渡り名が高さを上げてゆく瀧川・水ノ山林道。国際スキー場横の東尾根登山口をすぎ、美しい杉林の森を抜けるとブナの明るい林が続く大段ヶ平の緩やかな尾根の先端部。林道は山腹の山袈や沢を渡りながら先端部を巻いて大段ヶ平の上に出る。この尾根の沢や山袈は水ノ山山頂部の豊富な水を含み、崖からは滝になって下へ流れ落ち、山腹を潤し、山腹の沢それぞれに、緑の森が広がるとともに、その沢のいくつかには独自の生態系を作って今に続いている。

林道をつくるにあたり、これらの生態系をできるだけ壊さず守るよう配慮する意思を込めて林道に沿う作業基地兼退避場所を「駅」と呼び、この趣旨の名前が付けられたようだ。マイクロバスを降りて周りを観察する最初の自然観察地「湿地環境を守ろう駅」。

新緑の林がくねくね続く林道 新緑がまぶしい車窓を楽しみながら「湿地環境を守ろう駅」へ 湿地環境を守ろう駅 案内板より



■ 最初の自然観察地 「湿地環境を守ろう駅」 2025.5.29. 11:12

「湿地環境を守ろう駅」前の沢を眺める



林道は道幅は約12m一方が崖、他方は岩肌が迫り、普通車がギリギリ交わせる程度。これが自然環境と林業を両立させるギリギリ的林道建設なのだろう。何の姿勢もない小さな広場が林業を成り立たせる上で、車の退避・作業基地として大きな役割を担っている。林道周辺の環境を守るとの思いが「駅名」に込められているようです。



岩壁から水が流れ落ちる水を受け止める水路：木柵で湿潤環境が保たれ、設置された水路脇では沢から流れてくる水が周囲を湿潤にして多くの植物が育ち、林道ができた後もこの沢の生態系が守られている



岩壁から水が流れ落ちる「湿地環境を守ろう駅」前の沢の湿地環境 2025.5.29.



溶岩でできた岩壁から水が流れ落ちる「湿地環境を守ろう駅」前の沢 2025.5.29.  
 氷ノ山直下のこの沢では山頂部の豊富な水を含み、崖からは滝になって下へ流れ落ちて山腹を潤し緑の森が広がるとともに、その沢のいくつかに独自の生態系を作って今に続いている。  
 この沢でも溶岩でできた岩壁等から染み出す水や流れ落ちる水が、沢の周囲を湿潤にして、数多く樹木が育ち、沢を縁にするとともに、水跡・木跡で覆われた林道脇にも植物が数多く茂っている。見える大きな岩壁から流れ落ちる滝があるというのですが、縁に包まれた沢と岩壁林道脇からはよくわからずでした。



見あげる沢の上岩壁から水が流れ落ちているのが見えます  
 「湿地環境を守ろう駅」前 2025.5.29.



林道からは崖を流れ落ちる滝が全く見えなかったため、林道からは滝があるとは見えませんでした。水量の少ない時期だったのかもかもしれませんが、沢の中へ少し入って、崖の横に立てば、流れ落ちる滝が見られたようだ。



沢の上岩壁から水が流れ落ちる  
 「湿地環境を守ろう駅」前 2025.5.29.

ひょうこの環境・緑の回廊（野川・氷ノ山林道、氷ノ山ルート）

### ⑤湿地環境を守ろう駅について

本線が、氷ノ山から種がむに伸びる大段ヶ原まで、急斜面を切り通しなから標高を上げてゆく際に、氷ノ山より流れ出た豊富な水を確保してきます。これらの沢の多くが豊富な水をたたえており、川の源流の豊かな生態系を育む重要な役割を果たしています。

この駅もそのひとつで、沢の上には十数メートルの懸崖があり、社名ローケーションになっています。そこから流れ落ちる水や、崖からしみ出す地下水は、林道脇に独自の生態系を形成しています。このため、セリ科植物なども繁茂し、モリアオカエリ、ツツカエリ、セリサンショウツツオなどの高山植物、トシヤコなどの準高山植物の生息地になっています。またこの場所には「クロセンブリ」という希少な種らしいヘビトシヤコの仲間の生息が、近くの沢ではリュウケツツカの生息が確認されています。

この環境を保護するため、平成15年に林道脇に中継小屋を設置しています。

林道脇の植物環境 沢を遡って上流へ上がる林道 中継小屋設置後の状況 林道脇に設置された中継小屋

指定距離より 9.7km 標高 900m (その1) 徒歩で約1時間 徒歩で約1時間 (約駅) 徒歩で約1時間

【参考】 瀬川・氷ノ山林道 湿地環境を守ろう駅前の沢の岩壁を流れ落ちる滝

インターネットより  
 林道から見ると、何処も滝がただの絶壁にしか見えない。  
 取敢えず斜面を上って横に廻ってみると・・・確かに水が流れています。  
 岩肌を濡らす程度の水量ではありましたが  
 周辺の緑と絶壁は目を見張るものがあります。  
 © <https://syou3a.bokunenjin.com/takivabusi%20kengainotaki%20menu.html>  
 © <http://nonstoprun.blog.fc2.com/blog-entry-3751.html?sp> 他より



### 次の観察地 標高1000mの「古木の谷」駅へ

高度を上げつつ、狭い林道を氷ノ山東尾根の東への張り出し部先端を回り込んで尾根の南側から東尾根の張り出し部に広がる緩やか大段ヶ原へ登ってゆく。  
 急峻な氷ノ山山頂直下、標高800mを超える山腹を巡る林道脇は緑に包まれ、北側の深い谷向こうに但馬の山並が見えるが、緑に包まれ高度はみえない。  
 林道周辺では兵庫県では珍しいトチノキが見られ、巨樹になった古木も多数。林道脇にも「ブナ」などの巨樹が数多く見られるという。

次の自然観察地「古木の谷」駅へ として、大段ヶ原で昼食の後大段ヶ原/氷ノ山山頂への尾根筋を標高1200mの避難小屋まで、素晴らしいブナの森のミニハイク 2025.5.29.

林道が方向転換するカーブのある安井林道分岐点から、大段ヶ原方面への約1km区間には、道の両側にブナ、トチノキ、ミズナラ、ハリギリなどの巨木が立ち並んでいます。  
 特に10.7km地点のハリギリ、11.3km地点のミズナラは県下で最大のものとして保護されています。10.7km地点の林道のすぐ脇にあるトチノキの巨木は、道を包み込むアーチのように立ち上り、まるで巨木の葉のトンネルのように入ると爽やかな空気を迎えてくれます。  
 またこの近辺から大段ヶ原にかけては眺望が開放、氷ノ山山頂をはじめ交差の森、群伏山、妙見山など但馬の山並みが一望できます。



緑に包まれた標高800mを超える水ノ山山腹の林道を先頭車の案内で「巨木の谷駅」へ



■ 自然観察地  
標高1020m 「巨木の谷」駅周辺



【巨木の谷】駅のすぐ前の谷で 2025.5.29.  
ブナの巨木がまっすぐ立つ谷の下側にミズナラ?の木 案内板の巨木かなあ……



【巨木の谷】駅のすぐ前の谷で 2025.5.29.  
ブナの巨木がまっすぐ立つ谷の下側にミズナラ?の木  
案内板の巨木じゃないと聞きましたが……

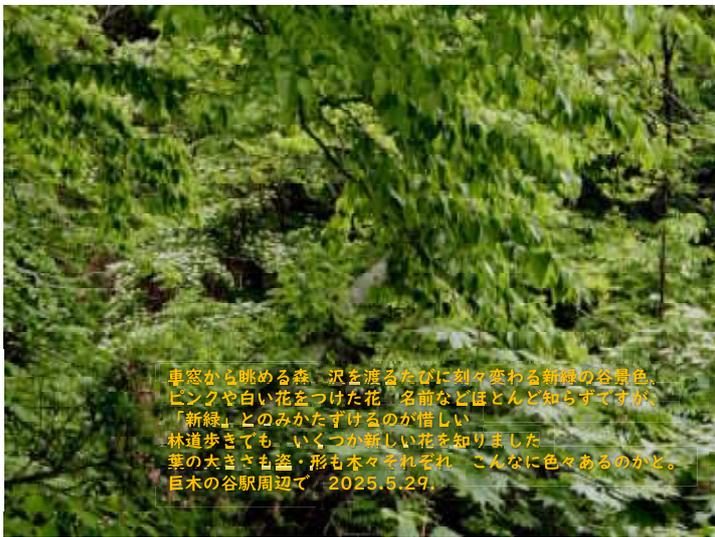


「巨木の谷」駅のすぐ横の谷にあるブナの巨木 2025.5.29.



巨木の谷駅周辺 新緑の森 walk 林道脇の樹木は緑の葉を一杯つけて枝を伸ばす。姿や形や花ばかりでなく葉の形・色・葉脈なども木々去れぞれ。もらった自然観察の資料を手に話を聞きながらの林道歩き。樹木が特定できるとうれしい緑の森 うまい空気を胸一杯





車窓から眺める森、沢を渡るたびに刻々変わる新鮮の谷景色。ピンクや白い花をつけた花、名前などほとんど知らずですが、「新緑」とのみかたずけるのが惜しい。林道歩きでも、いくつか新しい花を知りました。葉の大きさも姿・形も木々それぞれ、こんなに色々あるのかと。巨木の谷駅周辺で 2025.5.29.



見上げる空にウチワカエデの葉、青紅葉が心地よし。巨木の谷駅周辺で 2025.5.29.



段々になって咲く「クマノミズキ」の花の樹形。集合してそれぞれが段々になって咲いている花を拡大してみると、こんな風に小さな白い花が密集して美しい。



タニウツギの花。標高が800mの林道なので、車窓からも数多く見られました。巨木の谷駅周辺で 2025.5.29.



オオカメナシ??の花



クマノミズキの白い花の間から氷ノ山山頂部が見え、その手前になだらかな丘間もなく大段ヶ平・氷ノ山中央駅の駐車場に着く

ひょうこの里 緑の国庫 (源川・氷ノ山林道、氷ノ山ルート)

### ⑦ 氷ノ山中央 (大段ヶ平) 駅について

大段ヶ平という名が示す通り、氷ノ山より伸びる緩い尾根上に広がる盆地状の場所にあり、林道沿いには大きな広場があります。ここは氷ノ山への登山道「大段ヶ平コース」の起点になっています。このコースを使うと氷ノ山山頂まで最短時間で行く事ができます(往復約2時間30分)。特に新緑、紅葉シーズンには多くのハイカーが当地をペースポイントとして使用し、賑わいを果たしています。また広場からは、氷ノ山から始まり、神伏山、神武岳、妙見山、海蔵山系、奥宮ヶ峰へと数々の山々を180度のパノラマで展望することが出来ます。ここから見上げる氷ノ山は、確定方面から見える素晴らしい姿と違って変わり、こんもりとしたなだらかな山容を見せてくれます。

神伏山 (1,221)	神武岳 (1,074)	妙見山 (1,728)	海蔵山系 (1,083)
-------------	-------------	-------------	--------------

大段ヶ平コース (登山者専用タイム) 大段ヶ平登山口から一神大ヒュッテまで 50分、神大ヒュッテより一氷ノ山山頂まで 約50分

この場所の	標高	(新緑)	徒歩での所要時間	(次駅)
確定前より	1,100 m	巨木の谷駅	40分 (1.2km)	30分 (1.1km)



氷ノ山 大段ヶ平から眺める北側 中国山地 但馬の山並 2025.5.29.

奥くはらの自然の山の形は正確にはできていません... 左端に神伏山・源山が見え、中央奥に神武岳と手前が妙見山 丹波の山に海蔵山系、そして奥宮ヶ峰が見えています。

源川・氷ノ山周辺 自然観察ガイドブックより

大段ヶ平・氷ノ山中央駅 2025.5.29.

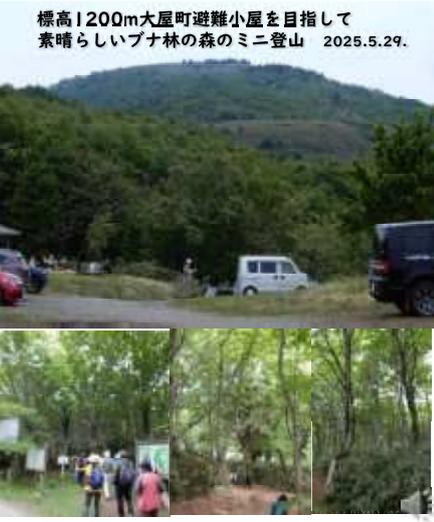


氷ノ山山頂 1510m  
目的の避難小屋はこのあたりか？  
仲間がよく止まったという神大ヒュッテ 標高1250m超

氷ノ山山頂が見え、その手前になだらかな丘  
大段ヶ平・氷ノ山中央駅の駐車場に到着 11:30 到着  
ここで昼食を済ませ、正面の氷ノ山中腹の標高1200m超の  
大屋町避難小屋まで往復約1時間のミニハイク。  
新緑に包まれた大段ヶ平の森 楽しみ。 2025.5.29. 11:33



大段ヶ平ブナ林の森のミニ登山の昼食 2025.5.29.



標高1200m大屋町避難小屋を目指して  
素晴らしいブナ林の森のミニ登山 2025.5.29.



標高1200m大屋町避難小屋を目指して  
素晴らしいブナ林の森のミニ登山  
緩やかに伸びる狭い尾根筋の両側に素晴らしい  
ブナ林が広がる大段ヶ平の先端部登山道



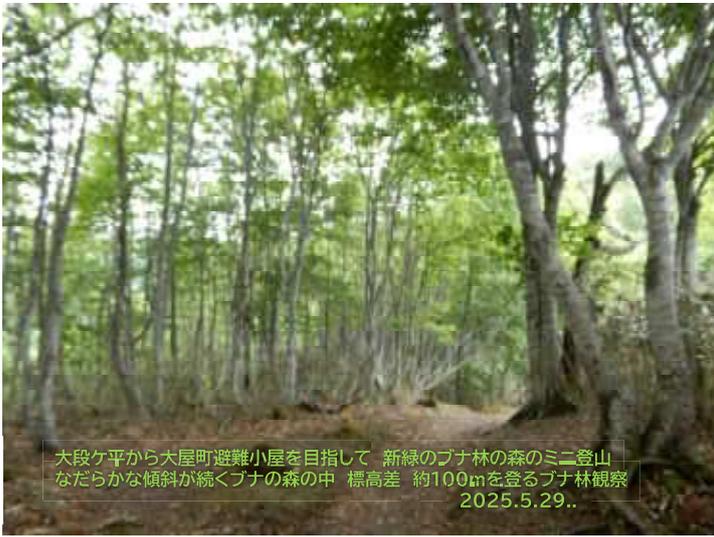
標高1200m超 大屋町避難小屋を目指して  
素晴らしいブナ林の森のミニ登山  
大段ヶ平登山口(標高約1100m) 12:10



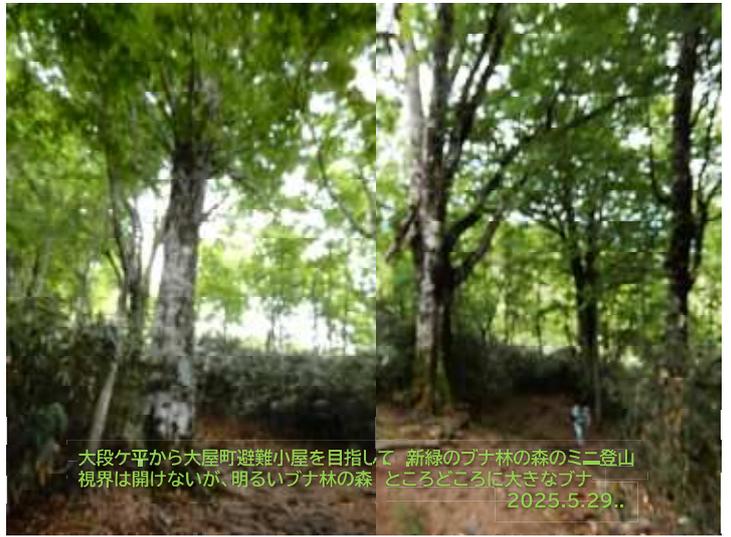
静岡・氷ノ山林道 自然観察会で 2025.5.29 氷ノ山 大段ヶ平の森  
眼前 氷ノ山山頂へのなだらかな尾根筋に広がるブナ林



大段ヶ平から大屋町避難小屋を目指して 新緑のブナ林の森のミニ登山  
なだらかな傾斜が続く森の中 標高差 約100mを登るブナ林観察  
2025.5.29..



大段ヶ平から大屋町避難小屋を目指して 新緑のブナ林の森のミニ登山  
なだらかな傾斜が続くブナの森の中 標高差 約100mを登るブナ林観察  
2025.5.29..



大段ヶ平から大屋町避難小屋を目指して 新緑のブナ林の森のミニ登山  
視界は開けないが、明るいブナ林の森 ところどころに大きなブナ  
2025.5.29..



大段ヶ平から大屋町避難小屋を目指して 新緑のブナ林の森のミニ登山  
大段ヶ平から一段上へあがると、背後が明るくなって  
樹木の間を通して、背後の景色が見える 2025.5.29..



- ◎ 横行溪谷を抜けた県道28号沿い 里山の杉林
  - ◎ 大段ヶ平のブナ林
- 標高ではっきり分かれている

藤無山↓

ブナ林の大段ヶ平

大段ヶ平から大屋町避難小屋を目指して 新緑のブナ林の森のミニ登山  
大段ヶ平から一段上へあがり、南東側の展望が開け、右手に横行溪谷を挟んで登ってきた大段ヶ平  
その先 遠くに若杉峠 東に立ち並ぶ穴栗市側の山並みが見えている 2025.5.29..



大段ヶ平から大屋町避難小屋を目指して 新緑のブナ林の森のミニ登山  
もうひと登りで 目的地の大屋町避難小屋 2025.5.29. 12:33



目的地の大屋町避難小屋到着 2025.5.29. 12:43  
約30分ほど 緑に包まれたブナ林の探検walk 心配した雨も降らずラッキー



次々と仲間も到着  
目的地の大屋町避難小屋から下山 2025.5.29. 12:48



巨樹のブナ 角度が変わると違って見える  
道脇の笹竹はスズ竹というらしい。このスズ竹の子をスズゴといい、  
スズゴ採りに登る人も多いという。  
大段ヶ平 ブナ林の森 大屋町避難小屋周辺で 2025.5.29.

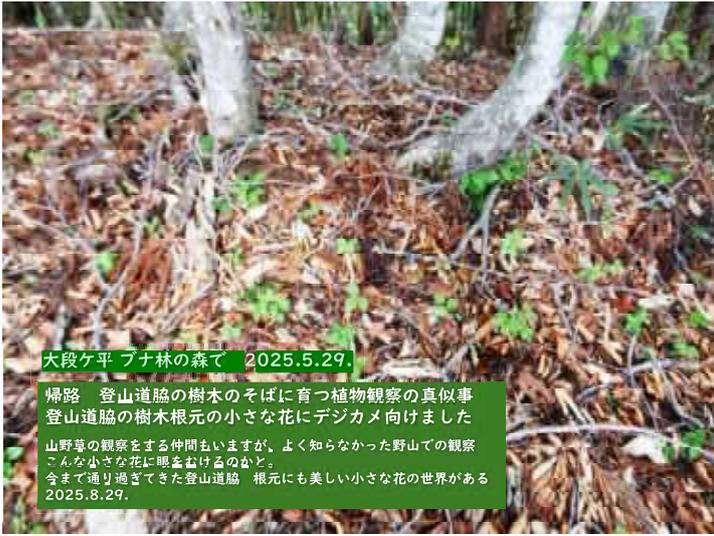


巨樹のブナ 角度が変わると違って見える  
大段ヶ平 ブナ林の森 大屋町避難小屋周辺で 2025.5.29.



新緑のブナの森  
樹木の根元の小さな花にデジカメに向けて帰る  
20名程の小さな観察会のグループですが  
森の散策路脇の藪の中に入り込んで、スズコを一杯採取する人  
道 樹木の根元にへばりついて植物の観察をする人  
登山道の周囲のブナの森をゆったり楽しみながら歩く人  
巨樹に抱き着き、耳を当てる人  
案内の先生の話を聞きながらこのブナの森を楽しみお人  
私はきよきよの周囲の樹林・地形など景色を楽しむ好奇心人  
みんなそれぞれの楽しみ方 人それぞれやど  
本当に今回は多彩な人と仲間になった

大段ヶ平 ブナ林の森で 2025.5.29.



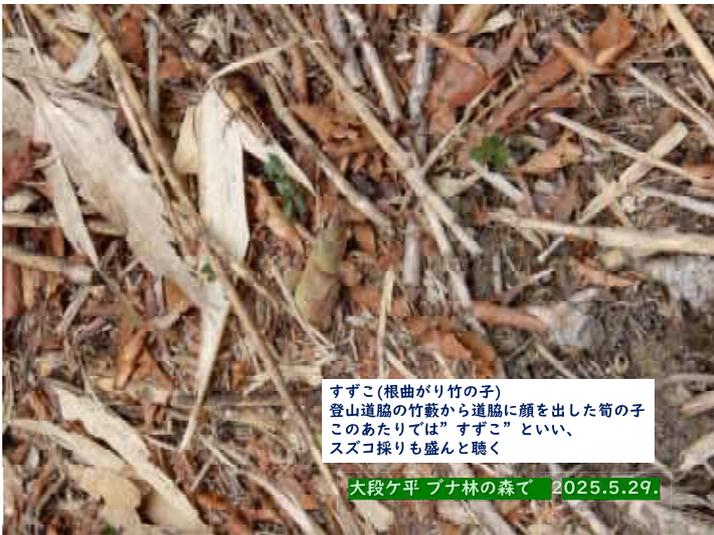
大段ヶ平 ブナ林の森で 2025.5.29.

帰路 登山道脇の樹木のそばに育つ植物観察の真似事  
登山道脇の樹木根元の小さな花にデジカメ向けました  
山野草の観察をする仲間いますが、よく知らなかった野山での観察  
こんな小さな花に眼を奪われるのかと。  
今まで通り過ぎてきた登山道脇 根元にも美しい小さな花の世界がある  
2025.8.29.



ツボスミレ  
湿った場所に生える多年草で、4月から7月頃に淡い紫色の小さな花を咲かせます。  
花は直径1~1.5cm程度で、花弁は5枚あり、下唇の中央には濃い紫色の条紋がある。葉は腎形で、根元からロゼット状に広がります。 googleレンズより

大段ヶ平 ブナ林の森で 2025.5.29.



すずこ(根曲がり竹の子)  
登山道脇の竹藪から道脇に顔を出した筍の子  
このあたりでは”すずこ”といい、  
スズコ採りも盛んと聴く

大段ヶ平 ブナ林の森で 2025.5.29.



大段ヶ平 ブナ林の森で 2025.5.29.



大段ヶ平 ブナ林の森で 2025.5.29.



大段ヶ平 ブナ林の森で 2025.5.29.



**ギンリョウソウ**  
 全体が半透明の白色  
 葉緑素を持たず、光合成を行わない  
 腐生植物で、菌類に寄生して養分を  
 得ています。  
 google レンズより

大段ケ平 プナ林の森で 2025.5.29.



**ツルアリドオシ**  
 緑色の葉と小さな白い花が特徴  
 地面を這うように成長します。  
 日本では本州から沖縄にかけて広く分布し、  
 山地や林の湿った場所に自生  
 この花の開花時期は5月～6月頃  
 google レンズより

大段ケ平 プナ林の森で 2025.5.29.



**チゴユリ (種見百合)**  
 多年草。日本各地の山地の林内に自生し、  
 4月から6月にかけて小さく可愛らしい白い花を  
 下向きに咲かせる。  
 花は直径約1.5cmで、花被片は6枚、  
 舌状。小さく可愛らしい花の姿を子供  
 に見立てたこと由来  
 日陰を好み、湿り気のある腐葉土のある場所に生育  
 地下茎を伸ばして増え、増殖することが多い  
 google レンズより

大段ケ平 プナ林の森で 2025.5.29.



**ユキザサ (雪簪)**  
 日本各地の山地の林内に自生するユリ科の  
 多年草。葉が笹の葉に似ており、白い花を  
 咲かせる。  
 また、若葉は野菜として食べることが  
 できるという。Google レンズより

大段ケ平 プナ林の森で 2025.5.29.



**ムラサキサギゴケ (紫賢荷)**  
 ムラサキサギゴケは、ハエドクソウ科の多年草で、  
 日本に自生。葉に似た形の紫色の花を咲かせ、  
 地面を這うように広がって育つのが特徴。  
 開花時期は4月から6月頃で、  
 日当たりの良い湿った場所を好みます  
 また、白い花もたうあるとか・・・??  
 google レンズより



大段ケ平 プナ林の森で 2025.5.29.



2021年4月氷ノ山山麓の鶏糞林道を下った時に素晴らしい杉林にびっくりしましたが、  
 今回 標高800mから1000mにかけての大段ケ平から山頂への登山道の森  
 こんなに明るく素晴らしいプナ林の森が維持されているのに本当にびっくり。  
 1時間ちょっとの散歩でしたが、本当に心地よい森の散歩ができました。  
 次は秋の自然観察walkにもぜひ参加したいと。  
 また、20名程の小さな観察会のグループ。  
 森の散歩路脇の熊笹の中に入り込んで、笹筒を一杯とってきて来る人。道々樹木の根元  
 にへばりついて観察する人。目的地まで、まっすぐ登る人。巨樹に抱き着き、耳を当てる  
 人。案内の先生の話聞きながら、このプナ林の森を楽しむ人。私などは周りをきよる  
 きよる樹林を楽しみながら目的地を目指すハイキング。  
 みんな、それぞれの楽しみ方  
 がある。人それぞれ。  
 今回は本当に多彩なあ・・・と。  
 でも、制限時間に大丈夫なのか  
 なあ・・・と心配しました。

新緑の森のうまい空気を胸一杯。  
 全く私知らなかった楽しみ方  
 があると知りました。

清々しい気分 プナ林の森の中での  
 森林浴。  
 みんな時間一杯楽しんで...  
 帰り着きました。  
 うれしい大段ケ平のプナ林との出会いになりました





澗川・氷ノ山林道 自然観察会 2025.5.29. 氷ノ山 大段ヶ平の森で

大段ヶ平からさらに氷ノ山山腹の沢を渡りながら西へ 横行溪谷林道への分岐を通過 山腹に沿って南へ高度を上げて 林道山頂駅・国境の駅を通過して次の自然観察地 「ブナの観察駅」へ帰りは横行溪谷林道を抜けて帰路に 2025.5.29. 13:30



標高1200m大屋町避難小屋を目指して 素晴らしいブナ林の森のミニ登山 2025.5.29.

新緑輝く素晴らしいブナ林の自然観察walk 兵庫県にこんな素晴らしいブナの森があるとびっくり。 うまい空気を胸一杯のうれしいミニ登山でした



巨木のブナの観察地 標高1160m ブナ観察駅 標高1030m付近の横行林道分岐横行溪谷終着駅を過ぎて、東の戸倉方面に向かって標高を上げて山腹を巡る。標高1260mの林道最高地点を過ぎて、徐々に下り、但馬・播磨の国境を越えてブナ観察駅(標高1160m)に到着。

標高1030m 横行溪谷終着駅

標高1260m林道最高地点駅

標高1200m 養父(但馬)と宍粟(備前)の国境 国境駅

標高1160mブナの観察駅



■巨木ブナの観察walk 標高1160m ブナ観察駅 2025.5.29.

但馬・播磨の国境を越えてブナ観察駅(1160m)に到着。13:45 ここでは林道脇に林立する巨木ブナが見られるといい、ブナ観察駅のすぐ前にもブナの巨木が立っている



ひょうごの屋根・緑の回廊(澗川・氷ノ山林道、氷ノ山ルート)

⑫ ブナの観察駅について

国境(市境。17.2km地点)を越えたあたりから、道の両側にブナの巨木が多く出現します。そんな木々を見たり、幹に触ったり、実を拾ったりと四季を通じて変わる美しいブナを身近に観察するのに絶好のポイントです。近くには林道のすぐ脇に整列するように並んで真っ直ぐ立っている4本のブナの巨木があり、これらは通称「額縁ブナ」と呼ばれています。この近辺で兵庫県森林林業技術センターが、ブナの結実調査(シートトラップ)を実施しています。



ブナ観察駅案内板のすぐ後ろに立つブナの巨木 見上げる空一杯に新緑の絨を上げた姿 何とも言えず素晴らしい ふりそそぐエネルギーを胸一杯!!



氷ノ山山腹を巡る野川・氷ノ山林道 プナの観察駅で 2025.5.29.



林道 野川・氷ノ山腹観察駅で、4本の巨木ブナが立ち並ぶ地点へ



通称「額縁ブナ」4本のブナの巨木が真っ直ぐ並び立つ  
案内板の意味わからず、正面からの写真なし。  
今写真を撮っている場所での撮影が4本のブナが額縁に収まるようだ。



4本の巨木ブナが立ち並ぶ「額縁ブナ」からバスに戻る。  
大きなブナの姿が本当に印象的なブナの観察駅周辺walk 益々好きになったブナ林  
ここから横行溪谷市終着駅へ戻り、横行溪谷を下って帰路へ 2025.5.29. 14:00



こんな素晴らしいブナ林が兵庫にあった  
もう感激一杯。秋にはナナカマドが紅葉して、  
見事と聴きました。秋もまたぜひ参加したいと。



ブナ観察駅から横行溪谷の入口へ戻る車窓から  
眺める巨木のブナの森を眺めつつ  
この風景も「額縁に収まるブナ」 2025.5.29. 14:10



**横行溪谷溪谷終着駅へ下ってゆく中間点で滑落事故が発生したらしい  
林道の通行が遮断され、マイクロバス 突然の約2時間の立ち往生**

林道山頂駅を過ぎて、横行溪谷溪谷終着駅へ下ってゆく中間点でマイクロバスがストップ。私たちの先導車の向こうで、緊急車両に消防車、赤いランプがくるくる。  
谷の中の滑落事故が発生し、救助作業が行われているらしい。  
山の遭難 今、色々話題になっていますが、救助作業の大変さをあからさまに眺める事になりました。

氷ノ山の山腹の沢を渡ってゆく右も左にも待避できぬ場所で行き違いができず、戻ることも厳しい。携帯電話は電波が届かない。緑で埋め尽くされた急峻な谷底。上空でヘリがホバーリング・旋回を繰り返し、谷へ降りた救助隊の救助員ではダメでヘリが一度基地へ戻る。ヘリが戻ってきて、救助活動再開。ストップして約1時間を過ぎて、救助者を豊岡病院へ収容。どうやら無事とのコメントに安とする。再度やってきたヘリコプターが待込み道具を収容して去って、今度は林道から降りた救助隊が谷を登り終わり救助活動完了。

無事車が動かせる。狭い1車線道路にマイクロバス。で向き合った車両どうするのか・・・山の遭難者の救助作業を余すことなる見ることに。山での遭難の救助活動のむづかしさ、そして狭い林道の観光ルート化する課題も・・・



緑に覆われた急峻な横行溪谷の支谷の谷底  
大きな海があるあたりか・・・  
谷への救助隊が動くのが少し見えるが、ヘリコプターが、空間を見つけて、降りてゆくのはむづかしいだろうなあ・・・ヘリコプターが何度もフォバーリングを繰り返すがうまくゆかない。





適切な救助道具をヘリが採りに戻り、空から救助を再度試みると決まったようだ。ヘリが空から温えてゆく。15分程度か・・・また、ヘリがやってきて、救助活動が再開され、滑落した人を救助できたのか、まもなくヘリが帰っていきました。今度はスムーズだったので、無事にヘリへ収容できたようだ。『滑落者は無事豊岡病院に収容された』との連絡が林道にいる救助隊の車に入る。『ヘリは再度飛来し、急に別された救助道具を持ち帰り、同時に谷に在る隊員たちも撤収を始めるので、林道が通れるまで30分余りかかるだろう』と知らせが入りました。谷へ降りた救助隊が谷へ降ろした救助道具を持って上がって来て、救助作業完了。 16:18.



電波も届かぬ急峻な崖を降りての救助作業。すごいことだとつくづく思う本当にご苦労様「滑落」との言葉が気になって、帰って聞けると何段にも溝がかかっている道のない谷？ヘリなしでの救助できない作業。 本当にご苦労様。山の遭難救助の厳しきつくづく。救助作業を終え、救助具を引き上げつつ、谷から林道へ戻ってきた救助隊 厳しい作業だろう。電波の届かぬ道のない急峻な深い谷へ降りての作業。すごいことだとつくづく。溝がかかっている周辺のように



走行ができるようになったのは、午後4時過ぎ 16:20 救助隊を先頭に走行が始まった。でも、救助隊の車は回転ができる場所までバック走行。約二時間遅れて、我々のバスも後に続く。「大屋川が流れ下る横行溪谷の自然観察は車窓からのみで そのまま神戸へ帰る」と変更。下山が始まり、横行溪谷終着駅から横行林道に入り、林道で口から大屋川に沿って県道28号 渡賀/大屋線 大屋町の街へ出て、大屋川沿いの船公園の駐車場に入って、今回のプログラムが終わる。残念ながら 新緑の横行溪谷観察は車窓から。 秋の観察会までお預けと。



回転ができる場所までバック走行する救助隊の車の後に私たちの先導案内車そしてバスが続く。 隊列が曲がり下った狭い林道をゆっくり下る。 2025.5.29. 横行溪谷終着駅手前の林道で



横行溪谷終着駅まで戻り、横行溪谷を下って大屋町へ。救助隊のバック走行の前も通常走行になり、ほっと一息ここからは支線の横行林道。溪谷沿いを一機に下る。滝がいくつも見られると期待していましたが、次回に。



横行(よこいき)溪谷 養父市大屋町 養父市大屋町から水ノ山登山ルートである大段ヶ平への道中にある溪谷。大屋川の源流は、横行溪谷に沿って水ノ山まで続いています。四季折々の自然豊かな景観が楽しめるコースで、特に新緑と紅葉は見事です。また、平家逃亡のロマンを秘めた溪谷でもあり、溪谷沿いには「平家ヶ城跡」「堀が淵(ひめがふち)」といった平家伝説にまつわる岩壁や湧きがあります。 横川・横行林道は一車線ながら舗装整備された一車線林道で標高800mを越える本線では美しいブナの森が広がっているのに対し、林立する杉の美林に覆われた森が溪谷に沿って続く。今回おもわぬトラブルで、車窓からの自然観察のみとなり、杉の美林と大屋川の溪谷が織りなす景色を存分観察できず。インターネットで得た資料なども加え横行溪谷の記録をまとめました。



標高1000m近隣の横行溪谷終着駅から横行林道に入ると周囲は杉の森の頂上部。林道両側は林立する杉林。車窓から自まぐるしく飛んで行く美林を眺めながら、ジグザク道を一緒に下って、谷の底部。すぐ横に大屋川源流部が流れ下る谷底に。周囲には美しい美林が広がり、美林の中を溪谷に沿って下ってゆく。杉木立が次から次へ進んでゆくのですが、川の流れや、角度を変えた観察などはできます。約30分ほどで溪谷を抜け、横行林道の出口 横行集落に出ました。でも 車も人も一人通らぬ林道を一機に駆け抜けた爽快感。この秋はこの溪谷も真っ赤と聞いたので、この秋の自然観察会に期待一杯です



湧水「ぶなのしずく」から少し下ったところが横行溪谷の出口で 横行集落のはずれ 横行林道の起点 新緑の横行溪谷をマイクロボスで駆け抜ける 2025.5.29. 湧水「ぶなのしずく」から少し下ったところが横行溪谷の出口で 横行集落のはずれ 横行林道の起点



**横行林道** 横行溪谷の谷へ降りて間もなく、こんな不思議な光景を見ました 2025.5.29.  
 初めて的光景:伐採した山での植林の風景 植林した苗木・若木一つ一つに被せた食害防止袋  
 分解性ポリマーでできた袋と支えポールで苗木・若木を保護 かけた袋もポールも自然に帰るとい  
 う今、鳥獣対策が植林にも大きな課題。人節が山でも大きく進行していること知りました。



Google Earthより 横行溪谷の出口で 大屋町側からの横行林道の起点標識

湧水「ぶなのしずく」から杉林の中を少し下ったところにあるバス方向転換広場があり、その横に「林道横行線起  
 点」の標識がありました。この広場に沿う坂道を下ると流れ下る大屋川の両岸に沿う養父市横行集落。  
 本当に山深い濁川氷ノ山林道 いろんな新しい経験ができた新緑の水ノ山自然観察会の一日になりました  
 秋にはもう一層この谷へと。 横行林道を通り抜けて 2025.5.29. 17:06



横行溪谷を抜けましたが、まだ、大屋川に沿う谷筋が束へつづく。  
 中間地区・栗ノ下で 南西の栗栗市波賀と北東の養父市大屋町を結ぶ県道29号線  
 へ合流。さらに東へ大屋川に沿って車で行くと養父市大屋の街に出る。  
 大屋町の駐公園でトイレ休憩をとり、神戸への帰路につく。

横行溪谷を抜けて、大屋川の両側に広がる横行集落を抜けて最終終結地大屋町の駐公園へ  
 もう夕暮れまじかですが、まだまだ山間 大屋川に沿って下る。



Google Earth Photoより

山間の道から2車線の広い県道28号に出る中間地区栗ノ下の十字路  
 左:杉杉峠で波賀町 戸倉・栗栗市へ 右:養父市大屋町 但馬と栗栗を結ぶ県道28号線  
 原チャリや車で何度か通過の県道28号線 でも もう記憶はあやふやです

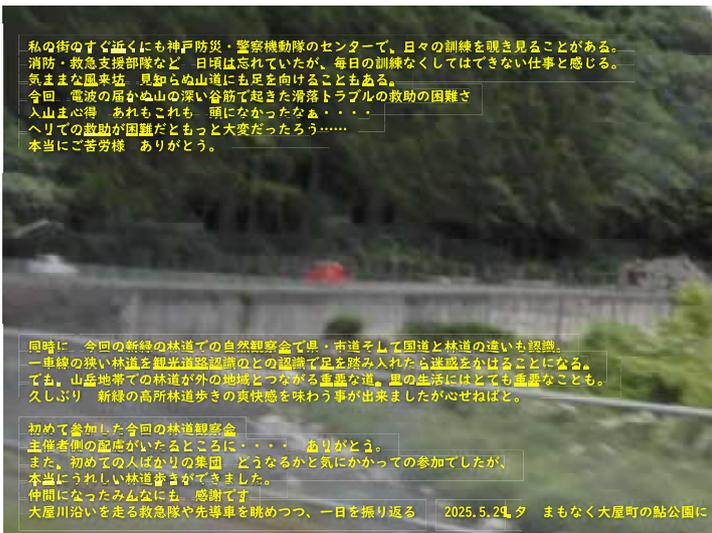


2車線の道幅広い県道28号に出て、杉林の山間 中間、筏の集落と点々と集落を抜けてゆく  
 「天滝」の標識を見つけ、この道が天滝へ入る道と気が付く 筏集落付近で



ほどなく大屋町の街の中心部近く大屋町蔵垣の里に入る 2025.5.29.

フロントの窓からは 街中に行く赤い消防車を先頭に救急作業作業車・先導車両それに  
 我々の乗るマイクロバスが見えている。  
 街の人たちにはこの光景 なんて見えているだろうか……  
 私の街のすぐ近くにも神戸防災・警察機動隊のセンターで、日々の訓練を覗き見ることが  
 ある。消防・救急支援部隊など 日頃は忘れていたが、毎日のご苦労 ありがとう。  
 道路わきには蚕のシンボル標識 養父・大屋はかいこの町だったと。  
 久しぶりの但馬路 色々思い出したからの一日ももう終わり。



私の街のすぐ近くにも神戸防災・警察機動隊のセンターで、日々の訓練を覗き見ることがある。  
 消防・救急支援部隊など 日頃は忘れていたが、毎日のご苦労 ありがとう。  
 気ままな風来坊 見知らぬ山道にも足元を向けることもある。  
 今回 電波の届かぬ山の深い谷筋で起きた滑落トラブルの救助の困難さ  
 入山まで あれもこれも 頭になかったな。……  
 へりての救助が困難だとちょっと大変だったろう……  
 本当にご苦労様 ありがとう。

同時に 今回の軽装の林道での自然観察会でも、市道そして国道と林道の違いも認識。  
 一車線の狭い林道を観光道路認識のとの認識を足踏み入れたる運感をかけることになる。  
 てま。山岳地帯での林道が外の地帯とつながる重要な道。里の生活にはとても重要なことも。  
 久しぶり 新緑の高所林道歩きの爽快感を味わう事が出来ました心がせねばど。

初めて参加した今回の林道観察会  
 主催者側の配慮がいたるところに…… ありがとう。  
 また、初めての人ばかりの集団 どうなるか気にかかっての参加でしたが、  
 本当にうれしい林道歩きができました。  
 仲間になったみんなにも、感謝です。  
 大屋川沿いを走る救急隊や先導車を眺めつつ、一日を振り返る 2025.5.29夕 まもなく大屋町の駐公園に



今日も一日 Good Day!!  
 みんなみんな ありがとう  
 Mutsu Nakanishi  
 2025.5.29. 夕

大屋川の土手にある大屋町駐公園駐車場で みんな帰路準備  
 養父のサポート部隊ともここでお別れ 神戸へ 2025.5.29. 5:25



瀬川・氷ノ山林道 自然観察会で 2025.5.29. 氷ノ山 大段ヶ平の森で  
眼前 氷ノ山山頂へのなだらかな尾根筋に広がるブナ林



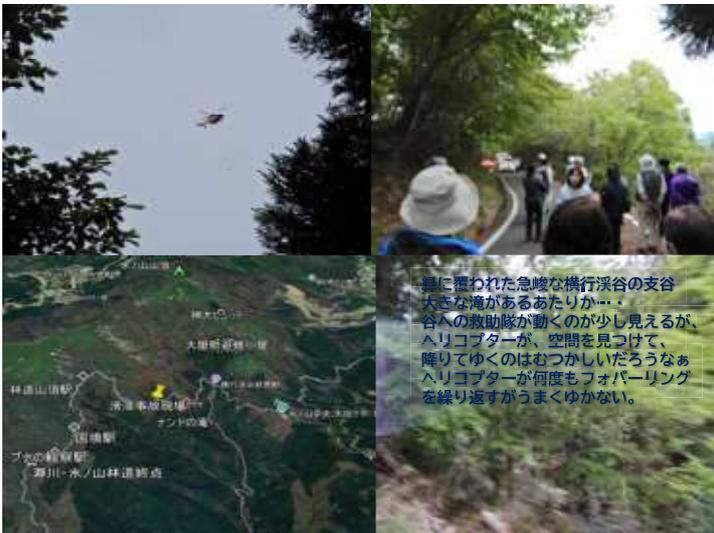
大段ヶ平から大屋町避難小屋を目指して 新緑のブナ林の森のミニ登山  
視界は開けないが、明るいブナ林の森  
ところどころに大きなブナ  
2025.5.29.



ブナ観察駅案内板のすぐ後ろに立つブナの巨木  
見上げる空一杯に新緑の枝を広げた姿 何とも言えず素晴らしい  
ふりそそぐエネルギーを胸一杯!!



氷ノ山山腹を巡る瀬川・氷ノ山林道 ブナの観察駅で 2025.5.29.



道に覆われた急峻な横行溪谷の支谷  
大きな滝があるあたりか…  
谷への救助隊が動くのが少し見えるが、  
ヘリコプターが、空間を見つけて、  
降りてゆくのはむつかしいだろうなあ  
ヘリコプターが何度もフォールディング  
を繰り返すがうまくゆかない。



兵庫県治山林道協会 瀬川・氷ノ山林道 新緑の林道自然観察ウォーク 2025.5.29.



氷ノ山山頂へと続く緩い尾根筋に広がる素晴らしいブナ林  
兵庫にこんな美しいブナの森がある 2025.5.29.



愛読した配布資料一覧 瀬川・氷ノ山 新緑の林道 新緑の林道ウォーキング 2025.5.29. 編集・発行人 兵庫県治山林道協会



兵庫県林業協会主催  
氷ノ山山腹を巡る氷ノ山林道自然観察会 2025.5.29.  
新緑の林道自然観察ウォーキング行啓マップ



周辺には何度も出かけたことがあるのですが、まだ山頂を踏んでいない兵庫県最高峰「氷ノ山(1509.8m)」家内がスマホで、見つけた「兵庫県林業協会主催 氷ノ山山腹を巡る氷ノ山林道自然観察会(募集定員14名)」神戸からバスで現地に入るとグメもとてもよいからと申込み。幸運にも参加OKの通知。  
3年前 氷ノ山登山の下見に通った瀬川・氷ノ山林道の自然観察会。個人で行くとは違う自然観察会。どんなwalkになるのか興味深々。2029.5.29。天候は曇り。夕方から雨の早朝。マイクロバスで神戸三宮・県庁前を出発。 8:00  
バス 新神戸駅南口・貝谷・阪神高速北神戸第一料金所自動車道・春日・北沢自動車道・滝・国道9号・美原・県道87号・指定・瀬川・氷ノ山林道入口。もったいなく行き方あるのに神戸の道は通話はややこしい



氷ノ山山頂へと続く緩い尾根筋に広がる素晴らしいブナ林  
兵庫にこんな美しいブナの森がある。2025.5.29.



ブナ観察案内板のすぐ後ろに立つブナの巨木  
見あげる空一杯に新緑の枝を広げた姿 何とも言えず素晴らしい  
ふりそそぐエネルギーを胸一杯!!



【記録】  
新緑の瀬川・氷ノ山林道  
新緑の林道自然観察Walk  
2025.5.29. by Mutsu Nakanishi  
兵庫にもこんな素晴らしいブナ林がある。また、私には違ったスタイルでの山歩き。いろいろ経験できたうれしい記録になりました。今度は真っ赤な紅葉の秋。次の観察会楽しみにしています。  
ありがとうございます  
2025.6.10. Mutsu Nakanishi

デジカメの調子悪く、ピンボケばかりでお許しください。素晴らしい新緑のブナ林のうれしい記録。また、一部 インターネットから採取したPhotoや、2021年氷ノ山麓林道ドライブのスライド等を個々の場面の整理スライド他として使わせていただきました。感謝です  
Web 瀬川氷ノ山林道走行記録の検索・googleレンズ検索 Google Earth & カシミール3D地図他  
2025.6.5. Mutsu Nakanishi



氷ノ山山頂へと続く緩い尾根筋に広がる素晴らしいブナ林  
兵庫にこんな美しいブナの森がある。2025.5.29.



「湿地環境を守る駅」前の沢を眺める

## ■主な新緑のブナ林 自然観察の内容 (AI 要約の続き)

1. 道の駅「ようか但馬蔵」 養父市のサポート部隊と合流 イベントがスタートしました。
2. 福定親水公園 小休止を取りながら、周辺の自然を観察。
3. 湿地環境を守ろう駅 標高 800m を越える湿地環境を観察。  
林道沿いの沢や滝、独自の生態系が見られる場所で、自然保護の重要性を学びました。
4. 巨木の谷駅 ブナやミズナラなどの巨木が立ち並びエリアを観察。  
特に「額縁ブナ」と呼ばれる 4 本の巨木など 林道に立ち並びブナの巨木が印象的でした。
5. 大段ヶ平で昼食 昼食後、希望者は標高 1200m の大屋町避難小屋までミニ登山を楽しみました。  
杉林の森とは違う明るいブナの森。氷ノ山頂上に続く新緑の登山道のブナ林や足元の山野草の観察。
6. ブナの観察駅 標高 1160m の地点で、巨木ブナを観察。  
新緑の枝が広がる姿に感動し、自然のエネルギーを感じました。
7. 横行溪谷の車窓からの観察 溪谷沿いに続く杉林の森が続く溪谷の景色を車窓から楽しみました。
8. 但馬の名水「ぶなのしずく」 名水を訪れ、自然の恵みを体感。
9. あゆ公園 最後の休憩地として立ち寄り、自然観察を振り返りました。
10. 道の駅「まほろば」 休憩後、三宮へ帰着。

## ■ 特記事項

途中、横行溪谷で滑落事故が発生し、救助活動のため約 2 時間の遅延がありました。  
救助隊やヘリコプターによる迅速な対応で、滑落者は無事に救助されました。この出来事を通じて、  
山岳地帯での救助活動の困難さや林道の課題について考える機会となりました。

## ■ 感想と次回への期待

参加者は新緑の森やブナ林の美しさに感動し、自然観察を満喫しました。特にブナの巨木や新緑の森の爽快感  
が印象的で、秋の紅葉の観察会への期待が高まりました。また、林道の重要性や自然保護の意識を再認識する  
機会となりました。このイベントは兵庫県の自然の豊かさを体感し、参加者にとって貴重な体験となりました。

(AI 要約を整理して作成)

氷ノ山登山 walk。新型コロナ蔓延で 行けなかった氷ノ山山頂へのハイク。

本年は是非とも行くつもりでいましたが、が年の初めに家内の鎖骨・私の脛トラブルでの加療もあって、  
本年も残念ながら、参加申込みできませんでした。その前に下見の林道ドライブもしたので…・

家内がスマホで、神戸からバスで現地に入れる「兵庫県林業協会主催 氷ノ山山腹を巡る氷ノ山林道自然観察会(募集  
定員 14 名)」をたまたま見つけた。3年前 氷ノ山登山の下見に通った瀬川・氷ノ山林道の自然観察会。

原チャリで周辺へはよく行きましたが、氷ノ山へは空白のまま。即 ダメもとでもよいかと申し込み、幸運にも参加  
Ok の通知。個人でのハイクとは違う自然観察会 どんな walk になるのか そっちにも興味深々。

天候は曇り 夕方から雨の早朝 ミニマイクロバスで神戸出発 2029.5.29. 8:00

ブナの林や杉の林の森には何度が見ましたが、兵庫県にこんな  
美しいブナ林があるとはつゆ知らず。本当にびっくりしました。  
ちょっと足の便は悪いのですが、心地よいブナ林。

秋には森全体が真っ赤になると聞きました。

東北の紅葉は真っ赤ですが、関西で真っ赤になる紅葉は中々  
なし。こちらも想像するだけでうれくなる

是非、秋の観察会にも参加したいと。

関西で中々見られない素晴らしいブナ林です。

写真はピンボケばかりですが、是非きおくにのこしておきたい  
と 120 数枚の Photo Album と 10 分ものスライド動画に  
長々と。でも 心地よいスライド動画もできてご満悦。

私の好きな BGM 入れて、ゆったりと過ごすひと時です。



ブナ観察駅案内板のすぐ後ろに立つブナの巨木  
見あげる空一杯に新緑の枝を広げた姿 何とも言えず素晴らしい  
ふりそぐエネルギーを胸一杯!!

心やすめにでもなればと。ごめんなさい。

God Be with You!! From Kobe Mitsu

【風来坊 2025】【Photo Album】【スライド動画】【From Kobe 2025】

氷ノ山林道での新緑の自然観察ウォーキングイベントの記録 2025.5.29.

## 【記録】新緑の瀬川・氷ノ山林道 新緑の林道自然観察 Walk



兵庫県治山林道協会主催の「新緑の瀬川・氷ノ山林道自然観察ウォーク」に参加。養父市のサポート隊の林道先導案内でミニマイクバスで新緑の上記林道を移動し、兵庫県最高峰の氷ノ山（標高 1509.8m）山腹の林道を巡り、新緑のブナ林の続く林道で湿地環境、巨木の谷など各観察地で下車して、周辺の自然観察。新緑ブナの森の自然の美しさを楽しみました。

行程は以下の通りです：

《新緑の瀬川・氷ノ山林道 新緑の林道自然観察 Walk》

1. 道の駅「ようか但馬蔵」で養父市のサポート部隊と合流
2. 福定親水公園で小休止
3. 湿地環境を守ろう駅で観察
4. 巨木の谷駅で観察
5. 大段ヶ平で昼食（約 1 時間の大屋町避難小屋までミニ登山）
6. ブナの観察駅でウォーキング
7. 横行溪谷駅周辺をウォーキング（事故による約 2 時間林道閉鎖で 車窓からの横行溪谷の観察）
8. 但馬の名水「ぶなのしずく」を訪問（バス通過）
9. あゆ公園でトイレ休憩（養父市のサポート隊と別れる）
10. 北近畿自動車道 朝来の道の駅「まほろば」で休憩後、三宮へ帰着



途中、林道での滑落事故により、無事に救助が完了するまで、林道閉鎖により約 2 時間の遅延。

参加者は新緑の森の美しさやブナ林の巨木に感動し、自然観察を満喫しました。

また、秋の紅葉の観察会への期待も高まりました。

兵庫県の自然の豊かさを再認識する機会となり、貴重な体験となりました。

【注】今回この記録は PDF アルバム をそのまま Web にある「AI アシスタント」に「要約作成」を任せて作成。すこし、重なりと間違い表記を正しましたが、ほぼそのまま要約にしました。AI には疑問も持っていますが、pdf にした 125 枚のスライドコピーを読み取り、10分ほどで、しっかりしたこの要約を作成してくれました。要約文は次頁まで。まじで驚きました。時代の進歩と流れによく考えねばと。皆様にはどう映るでしょうか・・・

【記録】新緑の瀬川・氷ノ山林道 新緑の林道自然観察 Walk

- 【web File】 <https://infokkna2.com/ironroad2/2025htm/2025walk/25walk13.pdf>
- 【Photo Album】 <https://infokkna2.com/ironroad2/2025htm/2025walk/25walk13photo.pdf>
- 【スライド動画】 <https://infokkna2.com/ironroad2/2025htm/2025walk/25walk13.mp4>
- 参考: ■和鉄の道 2021. 【Photo Album】 残雪の残る氷ノ山山麓ドライブ 2021.4.21. <https://infokkna.com/ironroad/2021htm/2021walk/21walk08photo.pdf>
- 和鉄の道・Iron Road Top Page <https://www.asahi-net.or.jp/~zp4m-nkns/>